

「旅」の断片

2023年3月30日

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も、また旅人なり」。

旅人である悠久の時の流れの中で、歩んできた人生そのものが各人の「旅」と捉えるなら、「旅」をテーマにした今回誌の紙面は、とても書ききれないことになろうか。

…と構えて、さて何が書ける？と石灰化する脳みそを捻ってみると、波瀾万丈には程遠い我が人生、我が旅で披瀝できるようなピックは思い当たらず、白紙が埋まらない。

そんな大上段はさっさとやめて、まずは超ベタな切り口から、思いつくままの手前勝手な話を「断片」として、ふたつ並べてみよう。

■ 夫婦そろって海外旅行

海外をただ愉しむ旅は、夫婦そろっての旅行に限る…と私は思う。

それも旅行社の企画ツアーがいい。旅行の骨格は、そこに任せればよく、変な所で気を揉むことはない。

大切なのは、その骨格の上で、現地で可能な限り気が向くまま、興味が向かうままの二人だけのプチ・フリープランを愉しむことだ。

夫婦ならではのいいこととは…

- ① 二人の価値観の多様性が一人では発想できない着眼や吃驚する気づきを生み互いを刺激
- ② どこへ行っても未知の体験の「興奮と感動」を、その場で気安く交換し分かち合える嬉しさ
- ③ 一人では尻込みする場所や行動も、二人なら思い切ってトライできるワクワクドキドキ

たとえば、ハイキングも始点と終点だけツアーコンに了解とり、好きな原野を巡り歩き

たとえば、アフターディナーは、街中ツアーで目星付けたバーや、ライブハウスへ飛び入り

つまり、普段の生活では味わえないシーンの中での二人の新鮮な経験や話題が、夫婦の関係をリフレッシュし、その場に一緒にいるパートナーの存在の有難味を再認識できる機会となる。

プラン通りの引率ツアーでゾロゾロというよりも、ちょっと外れて現地の人々の生活文化や香りに触れる「夫婦だけのふれあい街歩き」、これがポイントだ。

そうして得られた夫婦の思い出は鮮やかなままに長く残り、二人の絆をさらに強固にしてくれる。

…といっても我々夫婦で参加した海外ツアーは、結果的にオーストラリア・スイス・ニュージーランド・北欧諸国と数少ないまま、伴侶の他界をもって打ち止めとなった。ここまで賛美した夫婦そろっての海外旅行、さて女房殿はどのように感じていただろう？ そこに自信が持てないのがダメ男の、ダメ男たる所以か。

口惜し紛れだが、別に婚姻関係に固執せずとも、気の合う男女同士の海外旅行なら、同様にまだまだ愉しめるはず。

その奇跡的な可能性を、なお求めてやまない昨今である。



スイスアルプスの
一コマ

北欧クルーズの
一コマ



■ 山への単独行

山は、単独行から始まり、そして単独行で終わる…私の実感である。

そんな流れにある我が山旅の遍歴を少しご紹介したい。

登山を始めたのは、文字通り「そこに山があったから」。登ってみたいと思わせる山がそこにあったからだ。

そんな動機だから、社会人になってからの登山は何にも捉われない単独行でスタート。新田次郎の「孤高の人」に憧れながら、金もないまま TENT 担いでの山旅が二十代。

しかしながら、周囲に山好きな連中の存在を意識し始めたあたりから、社内の同好仲間との登山、そして会社部活の山岳部を作ったのグループ登山と変遷。

形態も、重い TENT の幕営登山から、ウェルカムドリンクやステーキまで味わえる山小屋登山に。

そして登山客で満員だった夜行列車で通路に寝ころびながらのアプローチは、車での楽々アプローチへと、ラグジュアリーな山旅になっていった。

その間、会社傘下の山岳部は下火となったので、岳友二人と、家族も一緒にハイキング等の幅広いアクティビティが楽しめる「軟弱こまき山楽会」なるものを立ち上げ、今年で26年。

ただ、ここ十年位、その中でのハードな登山は、男性仲間の多くが加齢や体力理由で脱落し始めたため、遺伝的に優れた40～50代の、意欲溢れる山ガール??たちと黒一点で継続。

とはいえ終活として挑戦した8年前のスイス山行だけは、そのハードなターゲットや岩壁などの登攀スキルの面から単独行とならざるを得ず。

その後も、昨年まで年2回ほどの女性グループとの一万尺登山やスキーを堪能してきた。

しかし健康寿命が残り少ない中、女性メンバーのペースに合わせた山行では物足りなさを感じたり、ハーレムならぬ男一人のハリノムシロが切なくなることもあり、三年ほど前から単独行を少しずつ再開。単独行では当然ながら、登山ルートの選択や登降ペースの自由度を味わうと共に、男一人の気ままな山旅での、下山後の癒しの宿や温泉・居酒屋探訪を愉しんでいる。

もちろん、その道中での素敵女性達との新たな出会いもあり、今年の単独行では三人の女性が我が終活「オレが抱いた百人の女性」を飾ってくれることになった。

つまり、只今は単独行への回帰途中。

これって、「オギャー」と一人で生れ、「アチャー」と一人で命を終える「人生」とのアナロジーをなすものか。ということで、冒頭記述に戻り、(山)旅と人生とを無理やりこじつけて、シャンシャン。 以上

＜蛇足ながら、人生単独行という視点も交え、老いの心情をパロってみました＞

<p>雨ニモマケズ・・・</p> <p>雨ニモマケズ・・・ 風ニモマケズ・・・ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ・・・ 丈夫ナ体ハ ステニナク</p> <p>欲ハ残りテ 決シテ 穩ヤカナラズモ イツモ シズカニ ワラッテイル</p> <p>一日ヒトリ ワスカノ食ヲハミ 二日ニ一度ノ酒ヲタノム</p>	<p>アラユルコトハ 自分ヲ 感情ヲストオリシ 見聞キシテモ ワカラズ ソシテ 忘レサル</p> <p>子供ラノ嬌声絶エタ街中ノ 一人ワビシキ家ニイテ</p> <p>東ニ 病氣ノ友アレバ 行ッテ 着病モ ママナラズ 西ニ ツカレタ若者アレバ 行ッテ 叱咤激励ノ無責任 南ニ 死ニサウナ人アレバ 行ッテ オレノホウガ先ダトイヒ 北ニ 喧嘩ヤ戦争アレバ ツマラナイカラヤメロ トモ言エズ</p>	<p>ヒトリノトキハ ハナミズナガシ ヨルニナルト オロオロアルキ ミンナニ ヤクタタストヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ</p> <p>ソレデモ ホウケテ シズカニ ワラッテイル</p> <p>サウイフモノニ ワタシハ ナリタイ</p>
---	---	---